

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

マクロコズム 2000.5

◎特集 お知らせコーナーに注目!



vol. 34

(財)青少年国際交流推進センター

## 総務庁青年国際交流事業報告会

平成11年度の総務庁青年国際交流事業参加者による事業報告会が2月から3月にかけて行われました。全国から再集合した青年たちは、事業での体験を思い起こしながら熱く語ってくれました。

### 第25回青少年国際理解セミナー

航空機による海外派遣事業の報告会〔2000年2月6日〕



▲ はっぴ姿で元気に発表するブラジル団

▼ お隣の国はやさしかった!



◀ アフリカ大陸は迫力でした

▼ 建国50年で沸き返っていた中国



▼ それぞれの立場から想いを語りました



第26回青少年国際理解セミナー  
第12回「世界青年の船」報告会 (2000年2月11日)



▼ アフリカ文化の奥の深さを知りました



▼ グループでならいろいろな話が聞けますね



ピースセミナーの開催は「世界青年の船」の伝統になりました



## 第27回青少年国際理解セミナー

第26回「東南アジア青年の船」報告会（2000年3月19日）



▶ 青年国際交流事業の必要性を語る  
総務庁青少年対策本部駒形参事官



▲ 社会人、学生、参加青年、管理部  
様々な立場から語ってくれました



▼ 事業に応募するにはどうしたらいいの？





な活動が展開できていることに自信をもち、より一層各地の特色を生かした活動を推し進めていただきたいと念じています。そして、現在の状況に安住することなく、一層アクショングループとして前進していくことをめざしたいと思っています。具体的には、常に自らの活動を振り返り、全国推進会議で定められました「活動方針」に沿っているかを自ら検証していくことかと思えます。

また、会員の一人々におかれましては、IYEOとの繋がりがばかりではなく、様々な場において各

自の持てる力を社会活動に提供していただくことをお願いする次第です。

「文化と平和国際年」の今年、国際交流の大切さを知る一員として世界中の人々と手をつなぎ、世界の「平和」にむけて皆様とともに前進していくことを目指したく考えています。

会長を再任された年度の冒頭にあたり、このような決意を持って、今年度の活動に取り組むことをお伝えさせていただいてご挨拶とさせていただきます。

以下は、第29回全国推進会議（平成11年2月開催）において各都道府県IYEOの活動基盤とするために定められた活動方針から主な内容を抜粋したものです。

## 日本青年国際交流機構活動方針

### 1. 国際化時代にふさわしいリーダーの育成

#### (1) 次代を担うリーダーを自らの手で発掘する

数多くの活動の中で最も基本となるものは、私たちの原点である派遣経験を次代を担う若人に伝えることであろう。その中でも特に、子供たちへのアプローチに力点を置きたい。

#### (2) 地域青年団体の一つとして指導的役割を果たす

### 2. 地域国際化への貢献

#### (1) 国際交流の機会を提供する

#### (2) 交流体験を活用する

### 3. 国内・国際ネットワークの確立と機能充実

#### (1) 47都道府県のネットワークを活用する

本会は、各都道府県ごとの独自性を尊重しながら全国47通りの活動が展開されている。地方の時代にふさわしく、今後とも個性豊かな地域の活動にしていきたい。

#### (2) 国際ネットワークを拡充する

「東南アジア青年の船」事業を通じ、ASEAN各国とはSSEAYP Internationalという国際組織が結成された。韓国との相互交流も軌道に乗り、「世界青年の船」、「日本・中国青年親善交流」、「国際青年育成交流」事業で交流を深めた国々とも連携が図られつつある。

## 第31回全国推進会議

(日時：2000年2月19日(土)・20日(日) 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター)

財青少年国際交流推進センターの設立から6年を経過し、日本青年国際交流機構と財団のコンビネーションも見事なものとなり、各地での総務庁青年国際交流事業への受入れ体制も整ったことを実感させる雰囲気での会議でした。また、代表者の発言にも変化が出ており、とても前向きな姿勢を感じるものが多くなりました。

本会議の重要議題の一つは、2年に一度行われる日本青年国際交流機構本部役員の改選でした。2年前に選任され奈良県在住で会長の職を務めてきた酒井洋幸会長が再任され、再度ご尽力いただくことになりました。

以下、各ブロック幹事を含めて24名の役員が選任され、顧問及び参与の指名も行われて今後2年間の体制が決まりました。今回の会議においては、受入れに際しての工夫点を意見交換しあったり都道府県組織の活性化のための方策についてなども話し合われました。



平成12年度日本青年国際交流機構役員名簿

役職	氏名	
会長	酒井洋幸	
副会長	三浦博史	
副会長	焼野嘉津人	
副会長	小塚昭郎	
副会長	森田正英	
副会長	椿景子	
幹事	事務局長	大橋玲子
	事務局次長	山本克巳
	事務局次長	赤澤美雪
	組織担当	中野智昭
	国際担当	田中南欧子
	国際担当	齋藤珠恵
	企画担当	平畑玄洋
	広報担当	桶谷正一
	監査役	鈴木光雄
監査役	岡坂久隆	

役職	氏名	
ブロック幹事	北海道東北	佐藤周一
	関東	和久和夫
	北信越	田中克宜
	中部	鈴木伸彦
	近畿	雨宮美津子
	中国	村木実由紀
	四国九州	芝育生
九州	藤永郁智	

顧問	寺下英明
顧問	奥野照義
顧問	坂田清一
顧問	大森充
参与	柊巖
参与	大谷直義
参与	篠崎浩子



▲ 財団メンバーとともに（本人前列右）

## IYEOを語る

日本青年国際交流機構事務局長  
〔助青少年国際交流推進センター事務局次長〕  
大橋 玲子

### Q：国際交流を始めたきっかけは？

第14回「青年の船」に参加したのが、最初のきっかけです。それまでは国際交流には関心があっても、英語が苦手だったので、自分がそういう場に出られるとは思っていませんでした。職場の上司に勧められて参加したのですが、これが海外初体験でした。参加青年としては実に平凡な参加者でしたが、強いていうならば、国が実施しているこのような事業の価値や必要性について関心はありました。だから最初は評論家的な視点が強かったかもしれません。講義などは全部出ていたけれど、とりたてて積極的というわけではなく、フリータイムも、みんなが盛り上がっているトップデッキには行かないで、サイドデッキで寝ていたというタイプ。

それが、カルカッタのマザーテレサの施設を訪問した時に大きなインパクトを受けて、心の中に何か芽生えました。それまでは自分の日本でのボランティアに対する考え方が、どうしても義務とか責任という面を強く感じていて、人に何かをしてあげなくてはならないという意識が強く、どうもそれに不自然さがありました。

ボランティアというのは自分の意志で積極的にやるもので、なおかつ明るくありたいイメージがあったのですが、残念ながら日本ではこのようなボランティアの現場に会うことはなく、事実、そういう活動に参加することもなかったわけです。それが、マザーテレサの施設を訪問した時、まさしく自分がイメージしていたボランティアの姿が存在していました。この施設は、内容的には厳しいボランティアの現場そのものはずなのに、シスターたちが明るくニコニコしている。利用者の表情も穏やかで、全体の雰囲気 genuinely 和やかでした。

たまたま朝早くに訪問したということもあって、シスターたちの礼拝に同席する場面がありました。その時に日本の参加青年が何の断りもなく、無遠慮に写真を撮ってしまったんですね。でも、シスターたちは「思い出に残していただければ」と、心優しい寛大な対応をしてくださいました。感謝するとともに自分たち日本青年のぶしつけさが少々恥ずかしくもありました。

下船後はとにかくこの時の経験を「忘れたくない」という気持ちが強かったです。そして何



かをしようとした時、OB会の存在に思い当たりました。個人で何かをしようとしても限界があるので、この組織と一緒に活動が展開できればと思いました。全国代表者会議にはかった結果、マザーテレサの活動を紹介するとともに、翌年からマザーテレサの施設に物資を送る活動が始まり、「東南アジア青年の船」でフィリピンのマニラ市外にあるトンドの施設へ13回、「青年の船」でインドのボンベイへ3回送り続けることができました。

自分の経験から感じることは、私自身も事後活動はやるべきだと言われていましたが、カルカッタでの訪問がなければ活動には結びつかずなかったと思います。国際交流事業をする上で事後活動の必要性については強く語られていますし、当然するべきだと思いますが、まずは自分が受けた感動を形にしたいという思いを見つけて帰ってきて欲しいと思います。そうでないと結局その後の活動が長続きしないのではないのでしょうか。そして、そのためには問題意識をもって参加することが必至になると思います。

義務」「責任」という意識はとても大切なことですが、行動を継続させるためには、自分の中に「信じるもの」が必要だと思います。

#### Q: 活動を続けてきて変わったことは？

自分と言うのは恐縮ですが、個人的には活動を通じて、大きく成長させてもらったなあと思います。私自身、この組織は社会的に大きな価値があると信じているのです。構成員は幅広い年齢層で、様々な職業をもち、何よりも何かをしたいという意識が高い人たちだと思うのです。

そういう団体ですから、とりまとめの中心にいる者にはかなりの力量が要求されると実感しています。あらゆる人を受け止めて自分をしっかりと保つことを要求されてくるわけです。

人間そのものを試されている気がして、そういう意味でしんどいなと感じることもしばしば。いつも背伸びをして、いつも足りないという感覚がつきまといます。でもそういう環境が自分を伸ばしてくれたのではないかと感じています。

組織的な変化は、まずは先輩たちがOB会を作って下さったことにとっても感謝しています。最初の頃は全て自費でスタートしたわけで、それが国からのサポートを得られたことで全国組織としての形を成していったのです。活動に弾みがついて、全国共通活動が活性化していきました。ミャンマーに鉛筆10万本を送ったり、先述のマザーテレサの活動も、うまくその流れにのって発展していった事業の一つでした。当時は事務所もなく、全てボランティアでやっていたわけですから、すごいパワーだったと今でも思いますね。その一方で、やはりそのような形では限界があって、いつしか事務所を持つという声が出始め、法人化の話が持ち上がりました。そして6年前に働青少年国際交流推進センターが設立されたことで、IYEOの活動の流れは安定することができ、これは大きな転換期でした。

この組織のおもしろいところは、カリスマ的な人がいるわけではなく、皆が平等であるという意識が強い点。ですからピラミッド型の結束力の強い組織にはなりにくいと思いますが、その点がかえって良いことだと考えています。今のような多様な価値観の時代には、ゆるやかな

輪でないと多くの人を許容していくことはできません。このような性質は、国際組織を形成していく上でも大切なことだと思います。総務庁青年国際交流事業は、日本主催の事業ですから、日本がリーダーシップをとるのは当然ですが、あまり強く出すぎて、他国のプライドを傷つけてしまうのは具合が悪い。このような交流の場面では、この平等意識は大事ですね。ただ、国際組織のリーダーとなるためには、方向性を定めていく役割は必要ですから、権利は平等ですが、アイディアは先に示すというように。

#### Q：国際交流の必要性について

特に日本の場合、国際交流を意識して実施していないと他の文化に接することができないのは島国ゆえ、いたしかたないないことでしょう。これだけ通信手段が発達していても、直接異文化に触れる場面は、作らないと実現できないわけで、理屈抜きで必要だと思いますね。

その点では、国際交流の場면을意図的に作り上げるというのは日本独自の考え方かもしれません。たいていの国の場合、戦争等の侵略経験をもっていて、生活そのものが国際交流というよりもっと緊張をしているわけです。ですから、日本のこういった平和的な国際交流の場面に非常に高い価値を置いています。総務庁が実施している事業が、国内よりも海外で評価が高いのは、このような背景があるからでしょう。例えば、宗教戦争などで交流がもてない国同士であっても、日本が招へいすることで平和的な交流が可能になる場面もあるわけです。この日本ならではのアプローチの態度をもっと世界にアピー

ルしてもいいと思うんですよね。そして、主催者や参加者が、それは特別の環境であるということ認識する必要もあるのではと思います。

また、海外旅行との違いについて言うならば、海外旅行は人との交流というよりは、一方的な観光になってしまうことが多い。相手の文化を学ぶことはあっても、日本文化を伝える場面は滅多にないでしょう。ですから国際交流のように、双方が向き合いお互いが学びあう環境を整えるということは意味があると思いますね。

#### Q：今後の目標について

IYEO組織としては、今以上に地域に根ざした活動ができる体制にしていきたいですね。最近の日本社会は、学校中心の思考になっていて、学校ができないことを地域や家庭がカバーするという表現が目立ちます。でも、本来は子供の教育や日本人としての意識を植えつけることは、地域社会や家庭も中心的役割を果たすべきだと思うのです。

全国組織をもつ団体の多くも、各都道府県に支部があって地域に密着した活動を目指していると思いますが、どうしても本部を意識した縦の関係になりがちです。その点でIYEOは、本部があって47都道府県の組織があるけれども、それぞれの活動を本部主導ではなく、地域のニーズに合わせた独自の活動を展開できる土壤はあると思います。各地に実力者がいますからね。全国組織、国際組織であるメリットとは、それぞれの地域活動をより活発に、より深くさせていくものだと考えています。

個人的な今後の目標としては、当面はIYEO

と叻青少年国際交流推進センターを発展させていくことにできる限り自分を活かせればと思います。また、将来の活動に対して夢が語りあえる場を作っていきたいですね。

それから、個人的にはゆとりができればホームステイの受入れ家庭になりたいとも思います。あとはゆっくり海外旅行もしてみたいですね。(後何年先か…)

### Q: 最後にメッセージがあれば

国際交流活動で出会う青年たちというのは、常識的で積極的なメンバーが多いですから特別に言うことはありませんが、あえて言うなら、20代のメンバーに伝えたいのは「自分は足りない」という意識を基本として行動して欲しいということ。目上の人に噛み付くような反骨精神も必要ですが、多くの人と交流し、相手を受入れていくということに慣れていない部分を見受ける時があります。知識の吸収力という点では、今の若い人のほうが断然強いけれども、上の世代を含めて「人」からいかに吸収していくかという感覚を身につけて欲しいですね。マニュアル化できない部分に大きな学ぶべきものがあることを認識して欲しいです。



▲ SSEAYP International 総会にて(本人左から4番目)

大橋 玲子 (おおはし れいこ)

1953年東京生れ。1981年に第14回「青年の船」団員として参加。事業参加後、当時の事後活動組織であった「青年の船の会」で総務部長、事務局長を務める。また、「青年の船の会」の国際協力活動として「マザーテレサ施設への支援活動」を提唱し、全国的活動として推進役を果たした。

組織が「日本青年国際交流機構」となつてからもボランティアで事務局長を務め、平成6年に叻青少年国際交流推進センターが設立された際から事務局に勤務。

### <マクロコズム原稿募集について>

皆さんの活動をマクロコズム誌上で紹介してみませんか?原稿送付概要は以下の通りです。

- ・ 文字数: 約 1000 字
- ・ 写真 1 枚同封のこと
- ・ 原稿は電子メールかフロッピーにて送付のこと (写真は郵送)

原稿送付先: IYEO 事務局

電子メールアドレス: [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)

(アドレスが変更になりました。お間違えのないようお願いいたします。)

## 中米の小国ホンデュラスへの支援活動

小林 真由美

(第3回「世界青年の船」参加青年)

私は86年に「ピーストレイン神奈川」という平和学習プログラムに参加してアジアの留学生と出会ったことがきっかけで、88年から横浜市青年団体連絡協議会(以後、市青連)の活動に参加しています。主にアジアからの留学生の支援活動や交換プログラムの受入れをしています。しかし、91年に「世界青年の船」で中南米へ行った後は中南米の青年との出会いが増えました。そんなこともあり、現在市青連でAid for Honduras 実行委員会の代表をしています。

98年11月はじめ、ホンデュラスの留学生から「I need your help! ハリケーンで国が大変だから、何かしてほしい」という電話がかかってきました。人口600万人のホンデュラスで死者行方不明者約2万人、被災者約200万人という数字からもハリケーン「ミッチ」による被害の大きさがわかります。

ホンデュラスは超債務国のひとつで、借金を返済できないうちに橋などが壊れたため、インフラなどの整備には世界各国からの支援が必要になっています。このため、経済の復興には20年とも30年とも言われています。すぐに実行委員会を結成しましたが、私をはじめ日本人のボランティアスタッフはホンデュラスに行ったことがなく、メディアから情報も少ない中、手探りの活動が始まりました。

日本人には知名度の低い国ホンデュラスという



▲「横浜国際協力まつり」で初めての活動  
(筆者右から3番目)

国、そして馴染みの薄いハリケーンという天災による被害の大きさをどのように伝えるかという点で随分悩みましたが、市内の様々なイベントにハリケーンの様子を知らせる手作りのパネルを持って参加し、募金箱を置いたり、ホンデュラスの民芸品や食べ物などを販売したりすることにしました。その他実行委員会主催のイベントをいくつか企画していくことになりました。

会場ではよく「ホンデュラスって何?」「どこにあるの?」と聞かれました。ハリケーンの被害を知ってもらうことを目的に活動を始めましたが、まずは普通の人々に「ホンデュラス」という国を知ってもらうことが市青連としての役割ではないかと思うようになりました。一人でも多くの人にホンデュラスを知ってもらうためにメディアにイ

ベントのお知らせの掲載や取材の依頼をしたり、また少しでも身近に感じてもらえるように自主イベントにはホンデュラスの方にも協力してもらい文化紹介的な要素を取り入れるようにしました。

地道に活動が続けることで、多くの人に出会い、協力していただきました。そんなとき、ハリケーン後、日本人のご主人と帰国したホンデュラスの方から日本大使夫人を紹介されました。

昨年5月夫人が一時帰国の際、今まで集めた義援金を直接手渡しました。義援金の送り先はアメリカ人でボランティア活動に熱心な現大統領夫人が主催するNPOマリア基金と決め、子供たちの教育に役立ててもらおうようメッセージを添えました。その後、大使夫人から大統領夫人に義援金を渡していただいた様子は現地の新聞にも報道されました。たった一人のホンデュラス人しか知らず、活動の展開を心配していた頃のことを考えるととても幸運な出会いでした。

ハリケーンから約1年半が経過し、メディアでホンデュラスの名前を聞かなくなりましたが、復興はなかなか進んでいません。いまま避難所生活をしている人々がいたり、場所によっては学校の体育館が避難所になっていて授業が再開できない学校があったりするそうです。雨期にまだ仮設のままの橋が流れる心配もあるそうです。ホンデュラスはまだまだ支援を必要としています。実行委員会としては災害支援という形で始まった活動を今後どのような活動に展開していくかという課題がありますが、いまは6月のチャリティーお料理教室、7月のチャリティーコンサートの準備に追われています。

これまでもIYEOの多くの方から寄付をいただきました。この場をかりて、お礼申し上げます。今後ともよろしく願います。

募金受付先(郵便振替):10170-43970221

市青連 Aid for Honduras

### **Aid for Honduras チャリティーコンサート ~♪ジョンとラテンのリズム♪~**

日 時: 2000年7月8日(土) 17:00開場 17:30開演

会 場: 横浜女性フォーラム(最寄り駅: JR/市営地下鉄戸塚駅下車徒歩5分)

チケット: 前売り券:1,800円(全席自由) 当日券:大人 2,000円 子供(中学生以下):1,800円

(コンサートの収益金の一部はホンデュラスの非営利団体Fundacion Maria(マリア基金)に寄付し、子供たちの教育に役立てます。)

出演者: ジョン・海山・ネプチューン(尺八) 直居 隆雄(ギター) 加瀬 達(ベース)

納見 義徳(パーカッション) マーク・ディローズ(ドラム)

主 催: 横浜市青年団体連絡協議会 Aid for Honduras実行委員会

チケット等の問い合わせ先: 〒231-0013 横浜市中区住吉町4-42-1 横浜市青少年育成センター内  
横浜市青年団体連絡協議会 Aid for Honduras実行委員会  
045-662-7348(留守番電話) siseiren@aol.com

## 中国青年を受入れて

三宅 仁美

(平成8年度「国際青年育成交流」ネパール派遣団)

昨年11月19～20日にかけて、初めてホームステイの受入れを体験しました。

これまで自分がお世話になることは何度かあっても、お世話する側になった経験はなかったので、いざとなると思案することが多々ありました。

これまで度々個人的には中国へ足を運び、自分なりの中国人観のようなものがあつたのですが、やはり人間10人いれば10通りの考え方があるように、これまで会った中国の方とはまた感じの違う進歩的なタイプの方でした。我が家にやって来たのは、中国で有名な人民日報という新聞社でバリバリ働いている既婚の41歳の女性・ティエンさんでした。

正直言って、私以外の、家族は外国の方と接することがこれまでなかったものですから、不安なこともたくさんありました。例えば私は熟知していますが、中国の方独特の話し方や食事の際の習慣、物の考え方などetc…それに加え、前もって送られてきた滞在予定の方のプロフィールに記載されていた、40歳という年齢を見た瞬間、私の母は凍りついてしまいました。勝手ながらホームステイ＝若年層もしくは娘と同年代の人というイメージが自分の中でできていたようで、どのように振る舞ったらよいのか困惑していた様でした。

また、私の中でも、これまで知り合いになったことのある中国の40歳代の女性の方々は、すこぶる元気でパワー全開という人が多かった為、両親が何と思うか、圧倒されてしまうのではないだろ

うか…といろいろあらぬ危惧を抱いていました。

しかし、そんな心配はティエンさんに会った瞬間に無用だったと気付きました。写真のイメージとは全く違うきゃしゃでかわいらしい、非常に探求心旺盛で明朗な女性でした。私の家族も同じ感想を抱いたようで、心配していたことは、一気に吹き飛んでしまいました。

3日間と言っても正味2日しかありませんでしたが、有意義な2日間を送ることができました。一緒に最後のパーティで歌う歌を日本語で練習したり、日本の生活習慣について話したり(もちろん筆談 ONLY ですが)浴衣を着せてあげたり、ゆっくり過ごしたおかげで初めは非常に緊張していた彼女も帰る頃にはすっかり打ち解けていました。

今回初めてホームステイの受入れを経験しましたが、得たものは非常に大きかったと思います。もちろん貴重な友人ができたのを始め、一人の中国人女性を通じて、家族にも文化・習慣の違う人を受入れるということを理解してもらえました。日中友好とよく謳われますが、国と国よりも個人対個人のとりもつ仲が、最終的には真の友好につながるのだと改めて感じた3日間でした。



## IYEO 活動に参加して

ハドソン・エリーゲン・カレーダ

(第11回「世界青年の船」ソロモン参加青年)

21世紀へまさに突入しようとしている現代において「国際化」ということは、社会のいたる所で重要視されています。IYEOは、日本青年と外国人青年との交流プログラムを通して、国の異なる青年たちの相互理解を深め、日本青年の「国際化」を促進する非常に大切な存在であると思います。日本在住の外国人としてIYEOのこれからの役割を考えた時、青年たちが自由に意見交換をし、お互いの絆を深める上での、国が異なるという壁を越える場を提供するように、私には見えてくるのです。今までの活動からも、青年たちがすでにその壁を越え、世界の愛・平和・繁栄・平和的共存という意識を築き、その目的へ向けて活動していることが見て取れるでしょう。このような目的を達成するには、非常に多くの時間、お金、そして労力が必要とされます。

今回私は、近畿ブロック大会と琵琶湖の交流会に参加しました。以前から、IYEOの活動プログラムについては耳にしていたのですが、とてもフレンドリーなIYEO会員と交流することができ、予想以上に素晴らしい経験をすることができました。

近畿ブロック大会には、IYEO会員として初めて参加したのですが、言葉の壁をまったく感じない程アクティビティーは楽しく、新しい出会いをする絶好の場となりました。また、私は自分の国であるソロモンの紹介をしたのですが、他の



▲ 琵琶湖の交流会にて(筆者一番奥)

IYEO会員はインド、中国、メキシコについての文化紹介をし、会員の多様性を再認識しました。

琵琶湖においての交流会においても、美しい自然と美味しい食事、スリル満点のヨットとカヌー、そして夜空に輝く星と花火などを共有したIYEOの仲間は、この2日間のプログラムでお互いの理解と団結をさらに深めたことに間違いありません。

今回の2つのプログラムに参加し、日本青年の外国文化や生活様式に対する興味は、大変高いものであることを知りました。文化の壁を越えるIYEOの活動が、日本だけでなく私の国の青年にも広がり、また広く一般にも浸透するよう望みます。最後に、この2つのプログラムへ私を参加させてくれたIYEO関係者の皆様に、深い感謝を述べさせていただきます。素晴らしい経験をありがとうございました。そして、日本滞在中は、IYEOと密接に関わっていきたいと思っています。

## 13<sup>th</sup> SSEAYP International General Assembly (SIGA) Bali, Indonesia (4-7 August 2000)

「東南アジア青年の船」既参加青年が事業で培った友情を再確認し、各国同窓会や個人的ネットワークを広げていくことを目的として年に一回開催されている大会です。皆さんのご参加をお待ちしています。

- 1. 日 程 平成 12 年 8 月 4 日 (金)～ 7 日 (月)
- 2. 場 所 インドネシア バリ島 (クタ)
- 3. 内 容 開会式、交流の夕べ、ワークショップ、スポーツ&リクリエーションなど
- 4. 参 加 費 (2 人一部屋)
  - US\$ 160 (平成 12 年 6 月 5 日 (月)までに IYEO に申し込んだ場合)
  - US\$ 180 (平成 12 年 7 月 18 日 (火)までに IYEO に申し込んだ場合)
  - US\$ 200 (平成 12 年 7 月 19 日 (水)以降に IYEO に申し込んだ場合及び当日申込み)

航空券代 (関西空港及びデンパサールでの空港使用料等は含みません)

関西空港発着 115,000 円

8 月 4 日 (金) 関西空港 / デンパサール (バリ) JL-713 12:10 / 17:45

8 月 7 日 (月) デンパサール (バリ) / 関西空港 JL-714 19:10 / 06:00 (8 日着)

東京への接続 上記の路線 + 下記の路線 127,000 円

8 月 4 日 (金) 羽田空港 / 関西空港 JL-113 07:45 / 09:00

8 月 8 日 (火) 関西空港 / 羽田空港 JL-110 07:30 / 08:45

### 5. キャンセル料

参加費について 7 月 5 日 (水)以降、参加費用の 40%、7 月 20 日以降のキャンセルについては全額必要になります。

航空券代について

- 出発 1 か月前 (同日)より 15 日前 5,000 円
- 発券後又は出発 14 日前より前日 10,000 円
- 出発当日 航空券代の全額



## 6. 申し込み方法

- ①IYEO SIGA 係から申込書等の必要書類を取り寄せてください。
- ②申し込み書類と、参加費用を US\$ で現金書留で送付してください。
- ③IYEO への早期最終申し込み期限は、7月18日(火)とします。
- ④航空券代については、下記の口座へ7月26日(水)までに振り込んでください。
- ⑤必ず、日本に在住の IYEO 会員の方は、IYEO 事務局を通じて参加申し込みをして下さい。  
(SSEAYP International の取り決めにより、個人で直接インドネシア側に参加を申し込むことは出来ません。)
- ⑥インドネシア入国の際、パスポートの残存期限は6か月以上必要です。各自でお確かめ下さい。

### IYEO 事務局 SIGA 係

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階  
TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436 e-mail [miyuki@iyeo.or.jp](mailto:miyuki@iyeo.or.jp)

航空券代及び諸経費の振込先：日本青年国際交流機構  
富士銀行虎ノ門支店(店番号133) 普通：1746078

夏休み中につき、飛行機の混雑が予想されます。早めのお申し込みをお待ちしています。

前号でご紹介した Up with People の日本国内“ふれあいツアー 2000”の日程をご紹介します。詳細については、次号にてご案内します。

### Up with People “ふれあいツアー 2000”計画概要(案)

世界22か国から参加した約136名の若者が世界を回る中で、日本を訪問し各地でホームステイや地域活動などを通じて、日本の文化・生活を学びながら、国際的な相互理解の輪を広げ、出会う人々との交流を深めることを目的として実施しています。

特に、青年たちが演ずるミュージカルは、私たちに素晴らしい感動を与えてくれます。

期 間：2000年10月8日(日)～12月12日(火)

人 数：キャストメンバー117名、スタッフメンバー19名、合計136名

訪問予定地：長野県丸子町、奈良市、東京都、東京都多摩市、愛知県豊田市、京都府、長崎県、  
熊本県熊本市、熊本県荒尾市(計9都府県市町)

## 青年海外協力隊「平成12年度春の募集」について

青年海外協力隊は、国際協力事業団が実施する政府事業で、33年間に約18,000名の協力隊員が66か国に及ぶ世界各地に派遣されました。現在も、約2,300名の隊員が59か国で活躍中です。

総務庁青少年対策本部の青年国際交流事業の参加者からも、多くの青年海外協力隊員が出ていることを皆さんはご存じのことと思います。また、国際協力事業団の職員にも既参加青年が多く採用されています。

自分の力を海外で役立てたいと思っている貴方！ 厳しい試験ですが、チャレンジしてみませんか。

**募集期間：**平成12年4月10日（月）～5月20日（土）

**募集規模：**約140職種、約800名を募集

**応募資格：**満20歳から満39歳（平成12年5月20日現在）までの日本国籍を持つ方

**派遣期間：**2年間（単身赴任／現地生活費・国内積立金等が支給されます。）

**派遣国：**アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中近東、東欧の約60か国

（本人の希望は尊重しますが、協力隊員として従事する職務の内容や必要とされる技術レベルと経験、活動場所の生活環境への適応力等を総合的に判断して、派遣される国が決定されます。）

**選考試験：**一次選考／筆記試験（技術、英語、協力隊員適正テスト）と健康診断（書類審査）  
平成12年6月11日（日）、各都道府県で実施。

二次選考／面接試験（個人面接・技術面接）と健康診断（検診）

平成12年7月18日（火）～7月28日（金）の指定日（土日除く）に東京で実施。

**訓練：**出発前に約80日間の国内合宿訓練を受けます。

**応募方法：**所定の願書を協力隊事務局に提出のこと。締切／平成12年5月20日（消印有効）

〔問い合わせ・願書請求〕 〒151-8558 東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインスタワー6F  
国際協力事業団 青年海外協力隊事務局 ☎03-5352-7261

〔詳細資料の請求について〕 詳細資料は、返信用切手390円分を同封の上、次の宛先まで請求して下さい。

（〒163-8696 東京都新宿区新宿郵便局局留 青年海外協力隊事務局宛）

## I Y E O リ フ レ ッ シ ュ ク ル ー ズ

かねてより多くの会員から「にっぽん丸」での船旅へのご希望をいただいていたのですが、この度日本青年国際交流機構では、皆様のリクエストにお応えして「I Y E O リ フ レ ッ シ ュ ク ル ー ズ」を再開し、以下の日程で自主クルーズを行うことにしました。

同窓会を船で行いたい回生、家族や友人の方に船旅を満喫させて上げたい皆さんは、是非ともこの機会をご活用下さい。夏の週末という最高の条件です。皆様の参加をお待ちしています。

日 程：平成12年9月1日（金）19：30～9月3日（日）10：00 東京港着

参加費：1室3名ステートルーム使用 39,000円

1室2名ステートルーム使用 49,000円

募集人員：350名（最少催行人員 250名）

\*旅行代金に含まれるもの：船賃、全食事代、船内宿泊代、船内イベント費用

旅行代金に含まれないもの：乗船港まで及び下船港からの交通費、船内での個人的諸費用

締切日：平成12年6月30日（金）〔消印有効〕

申込み方法：下欄の参加申込書に記入の上、次の申込先までご郵送下さい。参加概要、参加費振込先及び申込確認書等をお送りします。申込書は一人で1枚ずつご使用下さい。

〔申込み及び 問い合わせ〕 〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3-6 秀和紀尾井町パークビル5F

商船三井客船 I Y E O クルーズ係〔TEL. 03-5211-5129〕

キ リ ト リ 線

## I Y E O クルーズ 参加申込書（お申込み日／ 年 月 日）

予 約 内 容	部屋タイプ〔2人部屋・3人部屋〕 料金〔一人：¥ 〕		生年 月日	明・大・昭・平 （ 才）	年 月 日
名 前	フリガナ		同室 希望者		
	1. MR 2. MRS 3. MISS				
住 所	〒□□□-□□□□ 〒		〔TEL： - - 〕		
区 分 〔該当項目に○印をつけて下さい〕	会 員	参加事業名／航空機派遣 〔参加年又は参加回数は参加回数を記入〕	年 回 回	団長・副団長・渉外・団員 管理部・班長・渉外・団員 管理部・NL・参加青年 管理部・NL・参加青年	
	一 般	紹介者名〔 〕			

## 平成12年度青少年国際交流を考える集い(ブロック大会)開催日程

ブロック名	開催県予定	開催日	ブロック構成都道府県
北海道東北	北海道	9月15日～16日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	山梨県	10月を予定	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	富山県富山市 (全国大会と同時)	11月18日～19日	新潟・長野・富山・石川・福井
中部	愛知県	10月28日～29日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	大阪府	1月27日～28日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	岡山県	1月27日～28日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	高知県	10月28日～29日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	福岡県	9月16日～17日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

## メールアドレス・ホームページURL変更のお知らせ

IYEO事務局のメールアドレスおよびホームページURLが以下のように変更になりました。

メールアドレス: [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)

URL: <http://www.iyeo.or.jp>

### 編集後記

4月。今年の桜は、あっという間に散ってしまっ  
たように感じました。時の流れがとても速く感じ  
る今日この頃です。慌ただしい毎日ですが、時に

立ち止まってゆっくり周りを見回して、大切なも  
のを見落とすことがないよう気をつけたいとふっ  
と思いました。今年度も頑張ろう! (R)

\*本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み  
下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 5月号 Vol.34 2000年5月1日発行(隔月発行)

編集:マクロコズム編集委員会

発行:財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力:総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定 価:198円(本体189円)

印刷所:株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

全国大会まで…

## あと201日! (from 5/1)

日本青年国際交流機構第16回全国大会富山大会

### 『こら—れ富山へ! きときとの21世紀へ…』

～ 47年に一度の富山大会です。皆さんの参加をお待ちしています!! ～

- 日時：平成12年11月18日(土)、19日(日)  
場所：富山観光ホテル(最高の立山連峰の眺望! 24時間温泉入り放題!!)  
プログラム(案):
- 11/18(土) 開会式  
フォーラム 第1部 講演会(講師:富山国際大学教授 永田円了氏)  
第2部 分科会(楽しく語ろう国際交流!)
  - 懇談会
  - 11/19(日) 今年度事業参加青年帰国報告会  
IYEOの歴史を振り返る  
閉会式



◀ 昨年の第14回全国大会岐阜大会で次回の開催県としてアピールする富山県IYEOと北信越ブロックのメンバー

## 日韓青少年指導者交流事業（派遣）

本事業も5回を重ね、相互交流の絆が強く結びつくことができたように感じます。今回は、財青少年国際交流推進センターの大森理事を団長にIYEO 椿副会長が副団長という名コンビの派遣団となりました。



◀ 有名な仏國寺の前で全員勢揃い



▲ ウルサン市役所へ表敬訪問

言葉は通じなくとも、心が通じた！

▼ ホームステイの醍醐味ですね



〈慶州のナザレ園〉

